RPAの学びを、手を動かす一問へ。

2021年1月13日発売発表。繰り返せるやり方をRPAへ渡し、人が次の創造へ使う時間をつくる学習です。



試した結果

当時の学習運用

初回：最短4時間

その後は1日1〜2時間・27日間

自習が続きにくい現場を見て

1時間から15分へ

小さな「分かった」「できた」が、続ける動機に。

簡単な問題から複雑な問題へ。前のやり方を、次の一問に生かす。

学ぶ前から、試した後までを一続きに。

原発表の九手順です。自分の仕事で使うために、見本と手を動かす演習をつなぎます。

準備する

1　学ぶ内容と背景

何を学ぶか。どの仕事で使うか。

2　学ぶ目的

使えるようになった先の仕事を描く。

3　用語の意味

同じ操作を、同じ言葉で捉える。

見て、捉える

4　仕事に近い手順例

自分の業務に近い、具体的なやり方。

5　一連の実演

始まりから終わりまで、通しで見る。

6　演習の取り組み方

何をどう試すかの実演を見る。

手を動かし、照らす

7　自分で演習する

手と頭を動かして、一問を解く。

8　答え合わせ

自分の結果と、見本を照らす。

9　振り返り

学んだことと、次に試すこと。

受講した時間と、試せたことを分けて見る。

説明用の例：一覧データの転記を学ぶ。仕事で使う前に、同じ模擬データで確かめます。

受講の記録

4時間 受講

実演を見た。
手順は説明できた。

同じ一件で、見るところ

模擬入力	本人が確かめる	必要なら支援
A社 金額120,000円	結果の金額を 見比べる	結果の照合を 一緒に行う
A社 金額 未入力	定めた条件で 停止・相談	不足時の 実演と練習

時間の記録に、本人が試した結果を添える。

次に何を練習し、どの支援を使うかを、一緒に選ぶ。

自分で試したところから、次の支援を選ぶ。

項目が欠けた模擬データも扱い、通常処理と例外への対応を練習します。



実務で試す範囲・停止条件・相談先は、
前もって共有します。

試す場面に合わせて

見本を見せる。
本人が試す。
結果に助言する。

Parsonsほか（2013）

対人支援職の指導者10人に、教え方を訓練した研究。説明・実演・練習・フィードバックを組み合わせました。

研究を読む →

教える前と後を、いまの一件から。

公開資料・実践室の案内は、2026年10月25日時点の補足です。

教える準備が、ぼんやり

仕事を教える実践室

「何から教えればいいのか、
ぼんやりしている」から。
近い例を一つ眺めます。

近い気がかりから見る →

教えた後が、気になる

知と実践 No.325

成果、習得、条件への対応、
支援を使う力を分けて、
次に見たいところを一つ。

教えた後、何を確かめるか。 →

一仕事を、模擬データで試す。

本人が試す時間と、結果を一緒に見る時間を用意します。

教える準備・教材の相談 →

Lallyほか（2010） →

96人の日常行動の研究。習慣化の経過に個人差。続け方や支援を考える参考に。